

新たな地域連携軸三遠南信道

中部ブロック 中平 浩文

1. 三遠南信地域と三遠南信自動車道

三遠南信地域は、愛知、静岡、長野の3県の県境地域（図1）のことであり、愛知県東部の東三河地域の「三」、静岡県西部の遠州地域の「遠」、長野県南部の南信州地域の「南信」をあわせ、三遠南信地域と呼ばれている。三遠南信地域は、歴史的な繋がりも強く、天竜川や豊川を使った水運や、太平洋沿岸部と内陸部を結ぶ「塩の道」と呼ばれる街道を通じ、陸運での交流も盛んであった。しかし、モータリゼーション後に周辺地域と比べて自動車交通の発展に取り残されてしまった三遠南信地域は、現在過疎化の進行による切実な課題を抱えており、地域の繋がりを取り戻すための県境を越えたネットワークの形成による地域連携が強く望まれている。

三遠南信自動車道（一般国道474号）は、長野県飯田市山本から静岡県浜松市北区引佐町に至る延長100kmの高規格幹線道路であり、中央自動車道と新東名高速道路を連絡し、地域間の連携強化を図り、三遠南信地域の秩序ある開発・発展に大きく寄与する重要な路線で、飯喬道路、小川路峠道路、青崩峠道路、水窪佐久間道路、佐久間道路・三遠道路などから成る一般国道の自動車専用道路である。（図2）



図1 三遠南信地域図

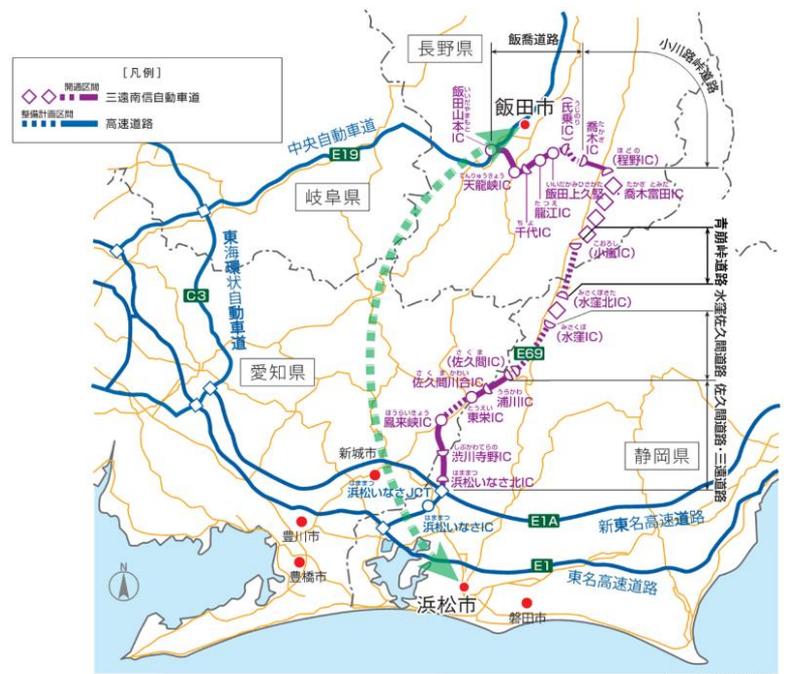


図2 三遠南信自動車道 路線図

2. 計画経緯

① 「三遠南信高速道路建設構想（愛知・静岡・長野3県知事会議）」

昭和43年に磐田郡佐久間町で開かれた3県知事会議において、3県の協力体制下による地域の開発について話し合われ、東名高速道路と中央自動車道を結ぶ三遠南信高速道路の建設、静岡県と長野県を結ぶ国道の未開通部分は兵越峠を通すことなどが合意された。

中平 浩文 木下建設株式会社 常任顧問、(元)国土交通省 中部地方整備局 飯田国道事務所長。

②三遠南信トライアングル構想

三遠南信トライアングル構想は昭和 60 年 3 月に中部経済連合会が発表したものであり、「21 世紀の中部ビジョン」のフォローアップとして策定されたもので、東三河地域、北遠地域、南信地域の 3 地域が、豊かな自然環境を背景として、それぞれの地域の政策課題に対応する産業の振興と適正配置、生活環境整備などを積極的に推進し、地方の時代のモデルとなる優れた都市圏を形成し、3 地域が三遠南信トライアングルエリアとして、県境を越えた一体的行動と機能の相互連携及び、補完を進め国土開発の新しい軸線となつて、中部圏発展の新たな核となる広域 200 万都市の実現を図ろうという計画であり、三遠南信自動車道は南北交流の軸に位置付けられている。(図 3)

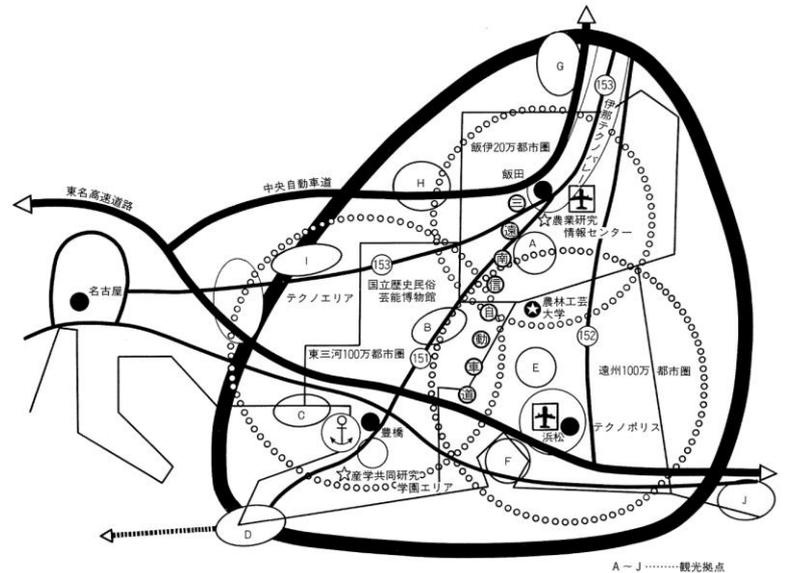


図 3 三遠南信地域トライアングル構想図

③第四次全国総合開発計画

昭和 62 年 6 月に閣議決定された第四次全国総合開発計画において、三遠南信自動車道は国土を縦貫し横断する路線の連携を図り、あるいは国土の主軸から離れた地域の一体化を図る路線として、全国的な自動車交通網を構成する高規格幹線道路網（1 万 4 千キロメートル）の一部に位置付けられた。

3. 事業経緯

事業は通行不能区間の解消を目的に、昭和 58 年より青崩峠道路、昭和 59 年より小川路峠道路でそれぞれ事業に着手しており、これらを含む形で昭和 62 年に高規格幹線道路の指定を受けた。その後平成 5 年に一般国道 474 号の路線指定を受け、平成 6 年 3 月には事業の進んでいた小川路峠道路（矢筈トンネル関連区間）が供用開始された。

平成 13 年 4 月には今後の整備について新たな方針が示され、これまでの全線自動車専用道路として完成形を目指す整備方針から、地域の実情を踏まえ、三遠南信自動車道の有効な使い方、整備の仕方を検討し、地域と連携した計画に見直した。計画見直しメニューとしては、①道路線形の見直し ②地域振興インターチェンジの設置 ③インターチェンジの簡素化 ④国と地方の役割分担 ⑤優先順位の明確化であり、特に④国と地方の役割分担では、三遠南信自動車道の整備（国）と本自動車道に並行する一般道（国道 152 号）の未改良区間などの整備（県）の役割分担を行うことにより、整備費用の削減、整備期間の短縮を可能とするものであった。(図 4)

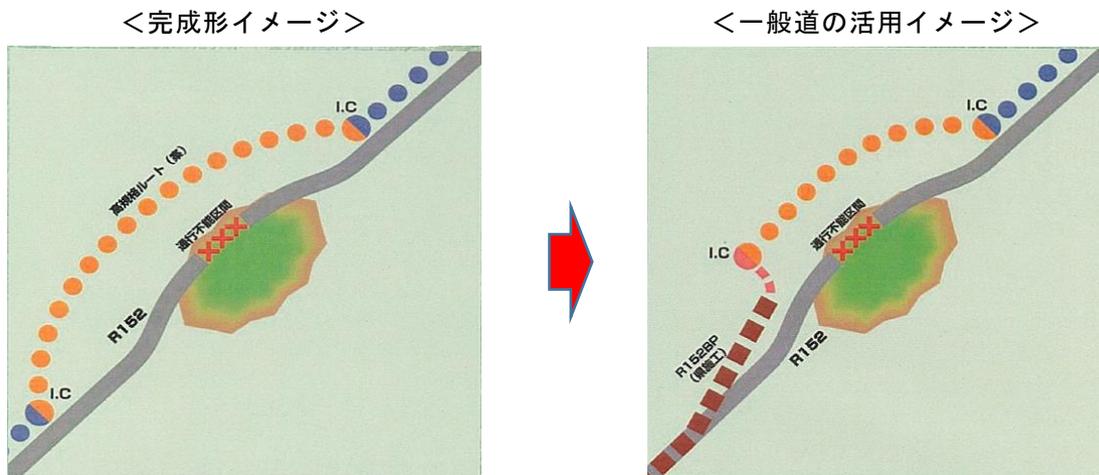


図 4 国と地方の役割分担(現況道路の活用)

計画上最も困難であった青崩峠道路については、日本最大の断層である中央構造線の影響を最小限とするため、有識者による地質検討委員会を設置し、より安全で確実なルート検討を重ねるとともに、地元住民代表を交えた青崩峠道路懇談会による住民アンケートなどの PI も実施し、中央構造線の西側をトンネルで通過する現在の計画とした。

現在までに、三遠南信自動車道約 100km のうち現道改良を含め約 6 割（約 59km）の区間が供用済みとなっている。（表 1）

表 1 開通済み区間延長

全体延長約100km		【開通済区間：59.4km（約6割）】		令和 6 年 9 月末時点	
路線	箇所	延長	完成日	備考	
飯橋道路	飯田山本IC～天龍峡IC	7.2 km	H20. 4.13		
	天龍峡IC～龍江IC	4.0 km	R 1.11.17		
	龍江IC～飯田上久堅・喬木富田IC	3.4 km	H30. 3.10		
小川路峠道路	矢筈トンネル	4.8 km	H 6. 3.29		
国道152号 (現道改良区間) (長野県)	向井万場拡幅	6.3 km	H23. 7. 3		
	上町～小道木	6.6 km	H 7		
	小道木バイパス	1.7 km	H27.10.17		
	和田バイパス	4.1 km	H28.12.17		
佐久間道路 ・三遠道路	小嵐バイパス	0.5 km	H27. 3.23	事業区間2.4kmのうち一部開通	
	佐久間河合IC～東栄IC	6.9 km	H31. 3. 2		
	鳳来峡IC～浜松いなさ北IC	13.4 km	H24. 3. 4		
	浜松いなさ北IC～浜松いなさJCT	0.5 km	H24. 4.14		
		59.4 km			

4. 現在の整備状況

飯橋道路の未供用区間（3工区）については、全体 11 トンネル、9 橋梁のうち 1 トンネル、2 橋梁が完成済みである。非常に山が深く工事用進入路に限られる状況ではあるが、限られた施工ヤードの中順次工事を進めている状況である。（図 5）

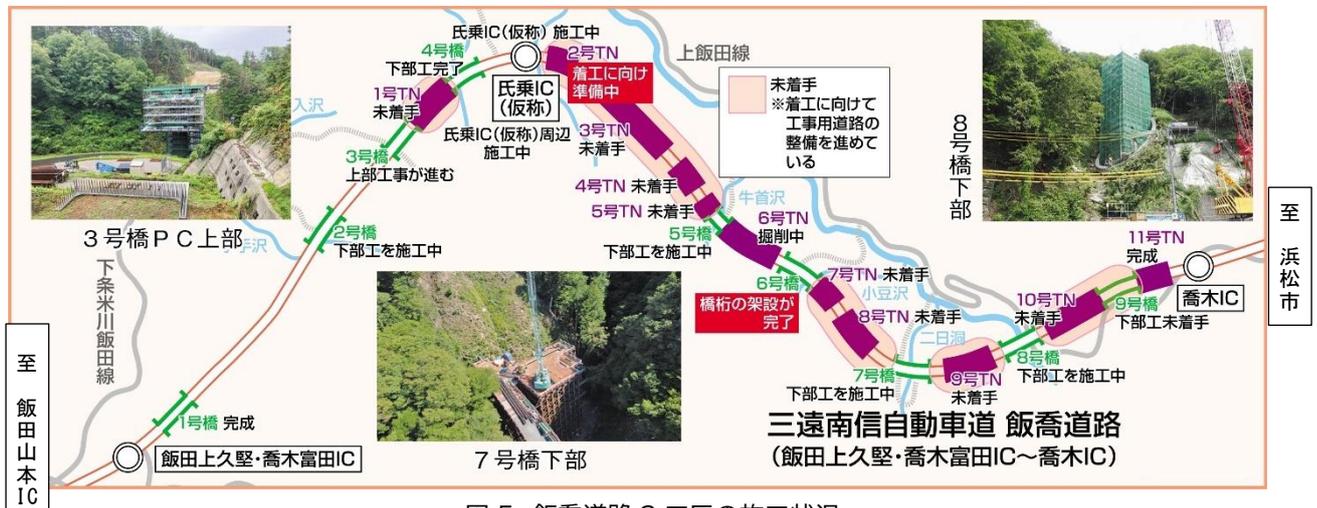


図 5 飯橋道路 3 工区の施工状況

青崩峠道路については、事業の大部分である青崩峠トンネル（仮称）（4,998m）が、約 4 年にわたる掘削工事を経て令和 5 年 5 月に貫通した（図 6）。トンネル掘削は、近接する中央構造線の影響を受けた脆弱な岩盤や最大土被り 610m による大きな土圧に対し高強度材料や二重支保工の採用などにより、困難を克服した工事であった。トンネル本体内工完成後は、受変電設備や機械設備、舗装工等を順次施工していくこととなる。

水窪佐久間道路は平成 31 年度に事業化し、工事着手に向け用地買収、設計等を実施している。

三遠道路は未供用区間で残る東栄インターチェンジから鳳来峡インターチェンジ間（延長 7.1km）について、令和 7 年度の開通に向けて工事を実施しているところである（図 7）。



図6 青崩峠トンネル(仮称)貫通



図7 三遠道路8号橋施工状況

5. 新たな交流

三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）は東三河地域、遠州地域及び南信州地域の県境を越えた地域連携を推進し一体的な圏域の発展を目指すことを目的とした組織であり、関連する市町村長及び商工会で構成されている。三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクトとして交流・連携に向け学習会、見学会の開催など様々な取り組み・情報発信を行っている。令和7年1月には第32回三遠南信サミットを予定するなど、三遠南信自動車道開通への機運を高める活動を行っている。

また、民間レベルでも事業進捗とともに三遠南信自動車道を軸とした新たな地域間交流が始まっている。

飯田市、浜松市、豊橋市の中学生を対象とした三遠南信交流事業「三遠南信中学生交流会」や南信、三河、遠州の3地域の合唱団が交流する「三遠南信文化交流合唱の集い」、飯田市南信濃と浜松市水窪地域の住民が交流を深める「^{やまたいこく}遠山郷・奥山郷“山大国”連携事業」など、継続した交流が期待できる取り組みも多い。

他にも三遠南信地域を舞台としたアニメや漫画も多数あることから（図8）、浜松市の青年会議所では2024年度三遠南信交流会として、豊橋青年会議所、飯田青年会議所と合同で浜松のアニメの聖地を巡るツアーを企画するなど三遠南信道沿線の交流を深めるツールの一つとして活用されている。

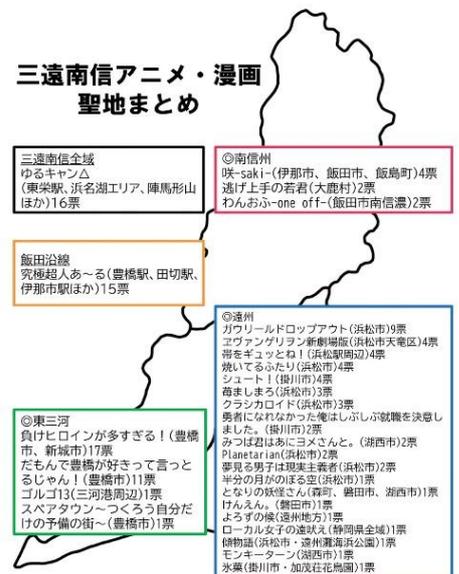


図8 三遠南信アニメ・漫画聖地まとめ

6. むすび

三遠南信自動車道の整備により、古くからの地域間の繋がりを再興し、産業・観光交流をはじめとする豊かな取り組みなどが促進されることを期待とともに祈念している。

最後に、本稿の作成にあたって、中部地方整備局飯田国道事務所をはじめとする関係者の皆様に資料の提供や確認を頂いたことに深く感謝申し上げます。

【参考文献】

- 1) 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 HP:三遠南信地域連携ビジョン推進会議事務局 (2024年10月16日取得, <https://www.sena-vision.jp/areainfo/date/date.htm>)
- 2) 三遠南信トライアングル構想: 中部経済連合会
- 3) 第四次全国総合開発計画: 国土庁, 1987.6
- 4) 三遠南信 Biz Vol.66: 南信州新聞社, 2024.9 5~6頁
- 5) 三遠南信地域連携ビジョン: 三遠南信地域連携ビジョン推進会議, 2008.5 (2024年10月16日取得, <https://www.sena-vision.jp/vision/index.html>)
- 6) 浜松市史五: 2016.3